1. 開催概要

展覧会名	ルーヴル美術館展　肖像芸術 ―人は人をどう表現してきたか	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	平成 30 年 5 月 30 日ー 9 月 3 日	426,056 人 （開会式・内覧会など含む）
大阪市立美術館	平成 30 年 9 月 22 日ー31 年 1 月 14 日	37 万人 （開会式・内覧会など含む）

●開催概要

※申請書に記載した当初の趣旨・目的等の達成状況について、データを提示しながら記入

※展覧会評・レビューがあれば、その出典・要旨を提示し、展覧会の客観的な評価を記入

本展は、ルーヴル美術館の全 8 部門から、「肖像芸術」というテーマのもとに 112 点の作品を選りすぐって展覧し、肖像芸術の社会的役割や表現上の特質を浮き彫りにすることを主眼とした企画であった。紀元前 4000 年代の古代から 19 世紀まで、幅広い地域・時代にわたる多種多様な肖像作品を、「1. 記憶のための肖像」「2. 権力の顔」「3. コードとモード」という 3 つ明快なテーマものとに分類・展示することによって、社会・文化のなかで肖像にどのような役割が期待され、またその役割に応じてどのような肖像表現が展開されたのか、幅広い客層に分かりやすく展覧することを試みた。

ヴェロネーゼの≪女性の肖像≫、通称≪美しきナーニ≫、アントワーヌ・グロの《アルコレ橋のボナパルト》といった絵画の名品だけでなく、高さ 2m を超えるナポレオンの大理石の彫刻など、立体物・重量物も多数出展されたため、余裕のある輸送プランおよび展示作業、これに伴う費用の設定が必須であったが、国家補償制度の適用によって、これらを安全かつ円滑に実施することが出来た。3000 年以上も前のエジプトの棺用マスクから、ルイ 14 世やナポレオン、華麗な女性や愛らしい子どもたちの肖像まで、ルーヴル美術館ならではの質の高い作品群によって肖像芸術の魅力が堪能できる本展は、東阪あわせて 79 万人を動員する成功を収めた。一般来場アンケートでは、「複合展ならではの多彩な作品を見られた」（国立新美術館）、「絵画だけだと思っていたのが、古代からの胸像や彫刻も見れてよかった」（大阪市立美術館）など、多くの好意的な意見が寄せられた。東京だけではなく、大阪にも巡回したことで、広く国民に美術鑑賞の機会を提供することができた。

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請書に記載した、補償制度活用による国民的利益（軽減された保険料の使途、効果等）の達成状況について、データを提示しながら記入

■展示作品の質・量の充実
本制度の適用により、アングルの≪オルレアン公の肖像≫、ヴェロネーゼの≪女性の肖像≫、通称《通称美しきナーニ》、≪埋葬用マスク≫、アンヌ・ルイ＝ジロデのアトリエによる≪戴冠式の正装のナポレオンの肖像≫、4品の出展が実現した。軽減された経費は上記作品にかかる費用、温湿度管理が可能な特注のガラスケースの制作、輸送や展示中のリスクを回避する施策実費、およびアジャクシオからの借用、輸送費の一部に充当した。

■入場料の無料化・軽減等
【国立新美術館】
通常実施の中学生以下無料に加えて（20,942 人来場）、7 月 14 日（土）～7 月 29 日（日）まで、高校生無料観覧日を 14 日間設けた。当初目標の 7,000 人は下回ったものの、期間中 3,189 人の利用があった。

【大阪市立美術館】
会期中、すべての土曜日に高校生無料を実施し、若者の美術鑑賞体験に大いに貢献をした。また、会場出口には美術品の肖像を楽しめるデジタルツールも設置、多くの来場者が美術品を多角的に楽しめる場を提供した。

■教育普及活動の充実
【国立新美術館】
ジュニア向けの小冊子「ルーヴル美術館展ジュニアガイド」を制作。子供たちが楽しく学べる内容を意識して作ったが、結果として大人の来場者にも好評で数多く手に取られた。制作数は 35 万部ですべて無料配布を行った。また、地域貢献と児童・生徒の鑑賞機会の拡充を目的として、近隣地域の学校を休館日の美術館へ招待する「かようびじゅつかん」を 7 月 3 日に実施、3 校（いずれも小学校）・206 人の来場者を迎えた。講演会は下記 2 件を実施した。

1）「ルーヴル美術館の肖像芸術」
講師：本展監修者：リュドヴィック・ロジエ（ルーヴル美術館 古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術部門 学芸員）
※逐次通訳
5 月 31 日（木）
14:00～15:30（13:30 開場）　参加人数：125 人

2）「ものがたる肖像—ルーヴル美術館展 肖像芸術に寄せて」
講師：小池 寿子（國學院大學教授）
7 月 21 日（土）
14:00～15:30（13:30 開場）　参加人数：189 人

【大阪市立美術館】
講演会を5件も実施し、広く来場者への作品の理解の場を提供した。

1)～3) 特別講演会:大阪市立美術館館長 篠雅廣
11月16日(金)人はどう表現されてきたか(82名)
12月14日(金)肖像画の作られ方(101名)
12月21日(金)この展覧会で見あたらないもの(77名)

4) 記念講演会:10/5(金)「王たちの肖像:ルーヴルの名品から読み解く権力のイメージ」
講師:岡田裕成氏(大阪大学教授)
参加人数:107名

5) 記念講演会:11/30(金)「肖像芸術の嘘と真実」
講師:宮下規久朗氏(神戸大学教授)
参加人数:172名

■鑑賞機会の拡大
東京・大阪両会場ともに、来場者の鑑賞機会拡大のため、下記の日時を特別に延長開館とした。

【国立新美術館】
8月14日(火)10:00～18:00
8月27日(月)18:00～21:00
8月29日(水)18:00～21:00
8月30日(木)18:00～21:00
9月 2日(日)18:00～21:00

【大阪市立美術館】
2019年1月2日(水) 10:00～18:00 ※閉館日だったものを開館に変更

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの
特になし

4. 安全配慮に関する特別の対応

※事故を防止するために実施した特段の安全配慮（特に、輸送や梱包に関することや、展示に関して、他展にも参考となりうること）を記入

■全作品の結界設置はもとより、来場者数の増加に伴って、安全確保のために会場内外の誘導方法を再検討し、運営スタッフの増員を実施した。展示ケースも多く、すべてのケースにセキュリティ・アラームを設置し、来場者と作品、双方の安全を確保した。

■作品輸送時においては、トラック 1 台に対してドライバー2 名の体制を確立。90 分～120 分ごとの休憩、夜間走行をしないなど、安全な輸送に努めた。

■展示方法については、ルーヴル美術館、日本での実施館と綿密な打ち合わせを重ね、作品保全を強化した。特に本展では重量のある立体作品が多く、設置の方法について極めて慎重に作業を進めた。具体的には、まず開幕の半年前にルーヴル美術館より担当者を日本に招聘し、東京・大阪双方の会場を視察してもらい、展示プランに基づきながら作品の展示方法に関するルーヴル側の基本方針を確認した。その後、作品ごとの具体的な展示方法を日本側で整理・提案し、ルーヴル美術館と合意に至るまで綿密な意見交換を重ねて、作品の安全確保を図った。特に重量のある作品は 2 トン近いものであり、施設が経年している大阪会場においては、館内輸送の際、鉄板・あるいはそれに準じる強固な板を床に敷いたうえで作品の移動を行った。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

本制度適用により実現したといえる、アングルの≪オルレアン公の肖像≫、ヴェロネーゼの≪女性の肖像≫などの来日をはじめ、ルーヴル美術館が誇る肖像芸術の傑作の数々を今回紹介することが出来たことは、国民への優れた美術鑑賞機会の提供、国際文化交流の推進という、制度の趣旨に合致するものでると考える。ルーヴル美術館も本制度の趣旨を理解し、制度適用に対して協力的であった。「肖像」は日本の鑑賞者には比較的なじみのあるジャンルといえるが、しかし肖像芸術に特化した展覧会の前例は、日本はもとより、世界においても思いのほか少ない。その意味で、ルーヴル美術館の所蔵品の特質を最大限に生かし、絵画・彫刻・工芸品など多種多様なメディアの優れた作品をもって、いわゆる"複合展"として肖像芸術の展覧会を実施したことは、国民に極めて有意義な鑑賞体験を提供できたものと考えている。

本制度の適用については、展覧会チラシ、ホームページ、図録、館内看板・会場入口看板での告知に努めた。東京・大阪会場ともに、高校生無料観覧日や講演会などは、決定後速やかに各媒体への記載に努め、より多くの来場者に利益を還元できるよう告知を行った。

無事に展覧会を終了することはできたが、今後も作品と来場者の安全面に配慮した会場構成・運営をより一層心がけていきたい。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名　国立新美術館・日本テレビ放送網・読売新聞社・BS日テレ

●収入（税込）

区分	内訳	決算額（当初予算額）
展覧会収入	【入場料】 一般(1600円) 大学生(1200円) 高校生(800円) 中学生以下無料 総入場者数　426,056人 うち有料入場者数　327,089人	万円 50,445 (68,034)
	【図録売上】	3,667 (4,950)
	【関連グッズ売上】	4,141 (2,639)
	【音声ガイド売上】	4,067 (2,903)
	【その他】	
その他の収入	【協賛金・寄附金】	7,000 (5,800)
	【補助金・助成金】 大阪展開催　分担金	22,500 (27,000)
	【その他】	
赤字	【補填内容】	
収入総額		91,820 (111,326)

●支出（税込）

区分	内訳	決算額（当初予算額）
企画準備等基本経費	【借用料】 借用、コンディションチェック、額装 修復費など 【謝金】 図録原稿執筆料など	万円 31,423 (35,505) 530 (1,032)
	【保険料】 ※制度適用された場合の金額	655 (2,547)
	【輸送費】　国際輸送費 国内輸送費 【クーリエ等招聘費】	8,658 2,768 (7,500) (3,800) 3,240 (5,500)
	【図録制作費】 【その他印刷費】	2,834 (5,200) 2,315 (2,400)
	【企画構成費】 【その他(交渉費・職員旅費等)】	1,500 (1,700) 0 (0)
設営・運営等会場関係経費	【広告・宣伝費】	12,741 (14,840)
	【展示施工費】	3,800 (3,500)
	【監視・警備費】	5,674 (7,000)
	【その他】 雑費 チケット他委託手数料 国庫納入分	505 3,757 11,420 (400) (2,382) (18,020)
利益	【利益の使途】	0 (0)
支出総額		91,820 (111,326)

※各区分又は総額において、予算額と決算額において30%以上の開きがある場合は、その理由を別紙(任意様式)に記入
※利益が生じた場合は、その使途を必ず具体的に明記
※特に秘すべき事項がある場合には、公開用資料を別途作成し、適宜区分を整理又は工夫して提出

6. 展覧会の収支決算書

主催者名　大阪市立美術館　読売テレビ　読売新聞社

●収入

区分	内訳	決算額（当初予算額）
展覧会収入	【入場料】 一般（ 1,600円） 高大生（ 1,200円） ※小中生は無料 毎週土曜日は高校生無料	万円 33,800
	【図録売上】 【関連グッズ売上】 【音声ガイド売上】	1,050 950 800
	【その他】	
その他の収入	【協賛金・寄附金】	2,160
	【補助金・助成金】	
	【その他】	
収入総額		38,760

●支出

区分	内訳	決算額（当初予算額）
企画準備等基本経費	【借用料】 【謝金】	万円 22,500
	【保険料】	
	【輸送費】 【クーリエ等招聘費】	
	【図録制作費】 【その他印刷費】	1,250
	【企画構成、コーディネーター費】 【その他(交渉費・職員旅費等)】 作品交渉・出張契約費	160 140
設営・運営等会場関係経費	【広告・宣伝費】 ●交通広告・新聞雑誌・特番・スポット製作費一式 ●プレスツアー	3,900 100
	【展示施工費】 施工 映像制作 【会場事務費】	2,700
	【監視・警備費等人件費】	4,000
	【その他】 チケット・グッズ販売ほか手数料 その他雑費	4,010
支出総額		38,760

※各区分又は総額において、予算額と決算額において30%以上の開きがある場合は、その理由を別紙(任意様式)に記入
※利益が生じた場合は、その使途を必ず具体的に明記
※特に秘すべき事項がある場合には、公開用資料を別途作成し、適宜区分を整理又は工夫して提出